

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立瑞穂野中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	91人	社会	91人	数学	91人
	理科	91人	英語	91人		

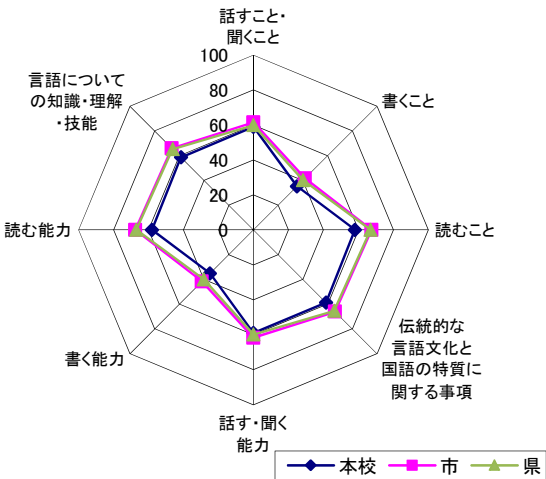
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	59.0	61.6	59.9
	書くこと	35.2	41.7	40.1
	読むこと	58.1	67.6	67.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	58.7	66.1	65.4
観点	話す・聞く能力	59.0	61.6	59.9
	書く能力	35.2	41.7	40.1
	読む能力	58.1	67.6	67.0
	言語についての知識・理解・技能	58.7	66.1	65.4



★指導の工夫と改善

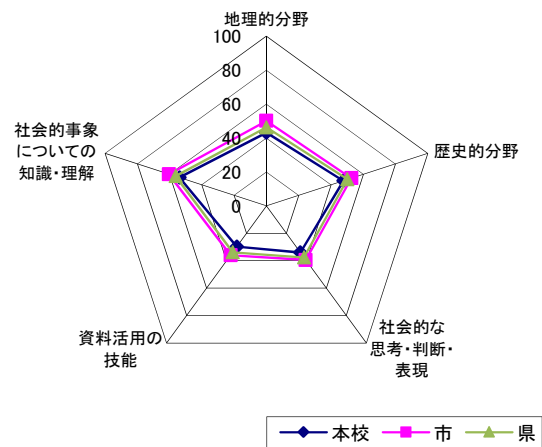
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は市や県と比べやや下回っている。 ○相手の意見を聞き自分の考えをまとめる設問は、正答率が9割と理解をしている。 ●必要に応じて質問しながら話を聞き取る設問は、75%の正答率だが、市の平均よりやや低い。	授業の中で様々な場面を設定した言語活動を多く取り入れる。特にグループでの話し合い活動を通して、意見交換をしながら、自分の考えとの共通点と相違点を整理して聞く力を伸ばす。また、質問する場面を意識的に設定し、理解のため話し手とのコミュニケーションを積極的に取る意識を育てる。
書くこと	平均正答率は市や県と比べ下回っている。 ●前につながる形で言葉を書く設問は、正答率が約8%とかなり低い。事実と意見との関係に注意して話を構成する設問は、正答率が12%とかなり低い。他の意見を参考に段落を書き直す設問は、無回答率が高い。	書くことへの抵抗を除くため、授業の中で文章を書く機会を多く設定する。特に苦手な生徒には、短文作りからや、パターンを提示するからなどの訓練をし、長文がしっかり書ける力の育成を目指す。また、読みの学習で事実と意見の区別を意識させ、それを書く力につなげたい。日常でも、目的や相手に応じた文章を書くことを意識させる。
読むこと	平均正答率は市、県と比べ下回っている。 ●説明的文章では、要旨を要約する設問の正答率が低く、文学的文章では、作品の表現の特徴を捉える設問や、登場人物の心情の変化を捉える設問に対する正答率が低い。	論理の展開に即して内容を読み取るために、段落ごとの要点をまとめる活動を多く取り入れる。また、読み取る基礎となる語彙力を高めさせるため、辞書の活用を習慣化させていきたい。 人物の心情を捉えるため、手がかりとなる描写や会話に目を向けさせ、そこから心情を考えさせる。 読書の習慣をつける活動を継続する。また、良書に触れさせるために、本の選び方にも言及したい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は市、県と比べ下回っている。 ○漢字の読みに関しては、正答率が8割を超えている。 ●歴史的仮名遣いに関する設問は、正答率が20%と低い。漢字の書きに関する設問は、上位の正答率と下位の正答率に大きな差が見られる。	授業の中で漢字の小テストを定期的実施したり、新出漢字や難読漢字の指導をしたり、漢字を学習するための時間を意識的に増やしていく。小テストで間違えた漢字の復習など、宿題等も含め、生徒自らが家庭でも継続して漢字の学習に取り組む姿勢を育成していく。古文の学習での音読を繰り返す行い、歴史的仮名遣いについての理解、定着を目指す。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	43.1	50.0	46.2
	歴史的分野	47.7	52.6	50.2
	社会的な思考・判断・表現	34.0	39.4	37.6
	資料活用の技能	29.7	35.9	33.8
	社会的事象についての知識・理解	53.9	60.4	56.3



★指導の工夫と改善

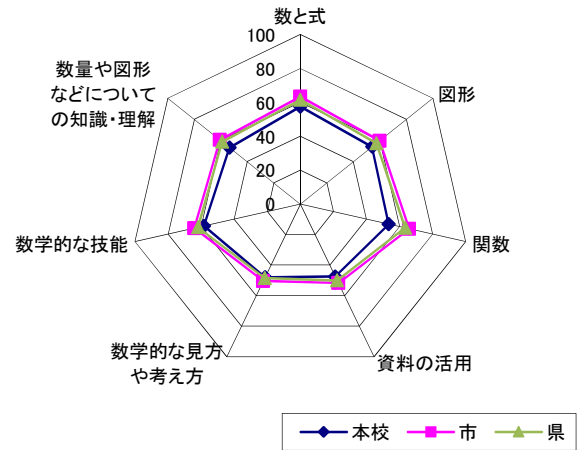
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	平成29年4月18日（火）	今後の指導の重点
地理的分野	●「思考・判断・表現」「資料活用の技能」「知識・理解」ともに、全体的に県平均・市平均を下回っている。 ○「資料活用の技能」において、雨温図を活用した考察や帯グラフの読み取り、帯グラフを活用した考察は県・市の平均よりも高い。 ●「世界地図の利用・方位」の正答率が、県・市平均を大きく下回る結果である。 ●「世界の諸地域」のうち、アジアに関する設問の正答率が低く、オセアニアに関する設問の正答率が高い。 ●出題形式では、選択式が県平均と同じ程度であるが、短答式や記述式では正答率が低く、特に記述式では無回答率が高くなる傾向がある。	・その時は理解したつもりで直後のテスト等では得点できていても、学習から時間がたち多くの内容を扱っていくうちに使える知識ではなくなってしまう傾向が強い。他方、シミュレーション的な活動や、資料をどんどん扱って考察したりまとめた時間の定着率が高い傾向がある。時間の制約はあっても、授業展開においてそれらの活動をより一層充実させていくことが肝要である。 ・自分たちの生活との関係を指摘したり他地域との共通性や相違性を簡単に指摘したりする言語活動の展開を今以上に充実させる必要がある。
歴史的分野	●全体的に県平均・市平均を下回っている。 ○「鎌倉・室町時代」においての設問では、全体的に正答率が高く、特に仏教の特徴や庶民の生活を考察する問題等でも県・市の平均よりも高い。 ●入学直後に扱う、小学校で学習した内容を概括する「歴史のとらえかた」の正答率が、授業後の定着率でも県・市平均を大きく下回り、歴史の流れがつかめていない。 ●出題形式では、選択式が県平均と同じ程度であるが、短答式や記述式では正答率が低く、特に記述式では無回答率が高くなる傾向がある。	・中世の歴史についての知識の定着率がおおむね県の平均を上回っているのに対し、古代の歴史についての定着率が低く、全体を押し下げている。歴史的事象への理解が表面的であり、時間がたつにつれて忘れてしまうと考察できる。小単位ごとに学習のねらいや学習課題を示すにあたって、前の小単元の内容を振り返る時間を設けたり、時代の特徴を考察をする展開で前単元の内容と比較したりすることで、学習内容の定着を促進していきたい。 ・知識・理解の定着を目指し進めている、定期テスト時の単語カード作成の補助や、定期テストの返却・解説後にもう一度全員にテスト問題をやり直させる取組は継続したい。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	57.5	63.3	61.5
	図形	54.2	59.8	57.4
	関数	53.4	65.9	63.4
	資料の活用	47.5	51.7	50.1
観点	数学的な見方や考え方	48.0	50.4	48.5
	数学的な技能	58.3	64.1	61.9
	数量や図形などについての知識・理解	53.4	60.6	58.9



★指導の工夫と改善

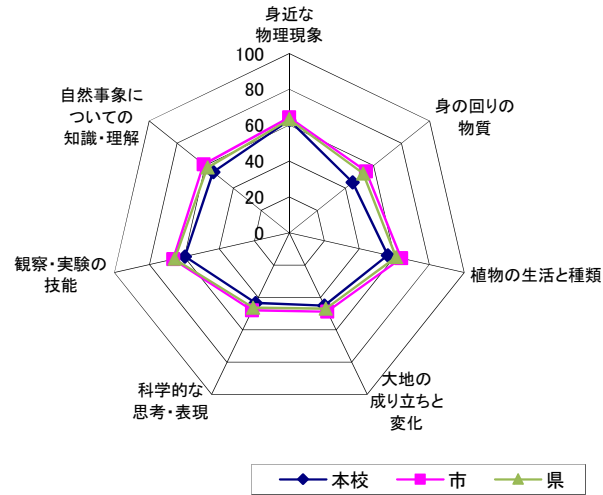
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	●自然数の定義など知識の理解が不十分のため正答率は県や市より10ポイント以上低い。 ○文字式の活用(記述式)は県や市より20ポイント以上高い。	・まず、知識の習得をしっかりさせて理解を確実なものにしていく必要があると思われる。豆テストを毎時間行うなど具体策を講じたい。
図形	●図形の知識が不足しているため、あやふやな解答になる傾向がある。求積も公式を覚えていないことから求められない ○反面、折り目の作図などは県や市より4～8ポイント高い。	・数と式同様に知識の習得をしっかりさせて理解を確実なものにしていく必要があると思われる。
関数	●座標の記入や式を求めること、グラフの読み取りなど10ポイント程度、県市より低い。いずれも基礎的な知識の不足と思われる。 ○活用についてはそれほど大きな差は見られない。	・数と式同様に知識の習得をしっかりさせて理解を確実なものにしていく必要があると思われる。
資料の活用	●相対度数を求めることは県市より10ポイント程度低い ○ヒストグラムから取り出して理由を説明する記述問題は正答率が10ポイント高い。	・具体的な求め方など折に触れて反復していく必要があるので授業に入れていきたい。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	62.8	64.3	63.2
	身の回りの物質	45.2	54.8	52.8
	植物の生活と種類	56.3	64.0	61.1
	大地の成り立ちと変化	45.1	48.8	47.0
観点	科学的な思考・表現	43.4	48.0	46.4
	観察・実験の技能	59.7	66.4	65.6
	自然事象についての知識・理解	54.2	61.1	58.3



★指導の工夫と改善

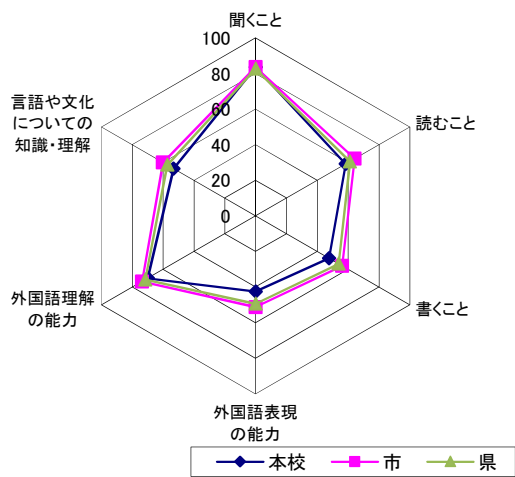
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○本年度は、昨年度より市との差が小さくなっている。 ○光については市より上回っている。 ●本年度も市よりやや下回っている。 ●音及び力と圧力は市を下回っており、特に手が物体を支えるときの力の表し方が理解できていない生徒が多い。	理科の力の定義は日常の概念とやや異なる点があるので、基礎的な内容から丁寧に指導する必要がある。また、力の表し方について、力の3要素の定着が図れるよう、練習問題等多く取り組ませたい。
身の回りの物質	●昨年度は市より若干上回っていたが、今年度は9.8ポイントも下回っている。 ●物質を粒子で捉えることができない生徒が多いため、状態変化での質量の変化が理解されていない。 ●ガスバーナーの使い方が理解できていない。	ガスバーナーの構造から使い方の手順の理由等についても理解させること及びパフォーマンステストの実施により全員が身に付けることを目指す。 モデル図を活用して理解を深めさせ、グループでの話し合いを通して定着を図る。
植物の生活と種類	●全項目で市を下回っている。 ●デパートをもとに考え、記述して答える問題は10ポイント以上下回っており、考える力・まとめる力・表現する力の不足が目立っている。	基礎基本の定着を図ること、基礎的内容をもとに自分の考えをまとめること、わかりやすい表現ができるように意見交換の場を設けること、発表の場を設けること等コミュニケーション能力の育成とともに取り組む。
大地の成り立ちと変化	●火成岩・堆積岩の種類とそれぞれの特徴が理解できていない。 ●地層の特徴が理解できていない。 ○地震のゆれについては市とあまり変わらない。	基礎基本の内容を単に覚えるのではなく、理由付けをして理解して覚えるように工夫する。 グラフを見て何と言えのかをグループの話し合いから理解させる。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	83.5	83.6	82.6
	読むこと	58.4	64.2	61.2
	書くこと	47.6	56.2	53.8
観点	外国語表現の能力	42.5	51.2	49.4
	外国語理解の能力	70.0	73.7	71.5
	言語や文化についての知識・理解	53.2	60.1	57.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○平均正答率は市とは、ほぼ同じ、県の平均正答率をやや上回り、83.5%である。 ○単文を聞きとる問題、対話文を聞き取る問題の正答率は8割を超えている。 ●疑問文を聞き取る問題とまとまりのある英文の聞き取りでやや低い生徒率が見られる。	・英語を聞くことに関しては、普段の授業の中で十分なインプット活動をとおして聞く力を伸ばし、質問に答えさせながら疑問文を聞き取ることに慣れさせ、ある程度のまとまりのある内容を理解できるように工夫する。
読むこと	●平均正答率は市より5.8%、県より2.8%低く、58.4%である。 ●長文を読み取る問題の正答率が低い。	・英文を理解するだけでなく、論理的に内容をとらえて長文全体の内容を読み取る力がついていない。教科書の中の長文を読み進める際に、内容をとらえる手立てとなるような発問を工夫し、読むことに慣れさせていく。
書くこと	●平均正答率は市より5.8%、県より2.8%低く、47.6%である。 ●場面や条件に応じた英作文の正答率が低い。	・テーマを与えて英作文を書く際に、考えがまとめやすくする工夫をする。 ・英作文の問題は、発問にも、場面や条件を与えるなどの工夫をして、日本語を英文にするだけの活動にならないようにする。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○本校生徒は「時間を上手に使うことを心がけている」「疑問や不思議に思うことはわかるまで調べたい」「授業を集中して受けている」「地域や社会で起きている問題やできごとに関心がある。」「家で自分で計画を立てて勉強をしている」などの質問に対して県の平均を5%～10%近く上回る、好ましい意識のありようを示している。この前向きな姿勢はぜひ継続させていきたい。

○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」「漢字の読みかたや言葉の意味がわからないときは辞書を使って調べている」などの質問に対して県の平均を5%以上、上回っている。

●意識調査の結果、県との数値の開きが大きく劣るものとして、「先生は学習についてほめてくれる。」がある。また、本校生徒は「自己有能感」「学習継続力」の2点でA群とD群の差が大きい。これはC・D群の、いわゆる「学習について遅れがちな生徒」に対して、モチベーションを持続させるための働きかけが不足しがちであると考えられる。授業における学習過程にスモールステップの段階を組み、こまめに達成感や充実感を与えるような「ほめる」指導が望まれる。また、同様に特徴的にA群～D群の差が大きい質問として、「難しい問題に出会うとよりやる気がでる」「自分はクラスの人の役に立っている」「自分は勉強がよくできるほうだ」「家でテストで間違えた問題について勉強をしている」などがあり国語以外の社会、数学、理科、英語で「次の教科の学習は好きですか」で差が大きい。これはC・D群の学習についてのあきらめがでている部分であり意識改革をしなくてはならない。

●「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」「家で、学校の授業の予習をしている。」が低い。見通しを持って学習を進められるような援助を考えたい。

●「次の教科の問題を解く時間は十分でしたか。」という質問について、検査の行われたすべての教科において県レベルより大幅に低い数値であった。この問題については、まず問題の意味を理解するために、読むスピードや考える手順など、授業の中で具体的に練習、訓練することが必要である。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自主学習ノートの作成 (家庭学習の充実と継続を めざして)	・自主学習ノートの運用ー毎日1ページ以上を目安とした、自主学習ノートの活用を行う。 ・学芸委員による生徒目線での働きかけー学芸委員が自主学習ノートの提出状況を記録し、定期的に全提出者に対する「自主学習優秀賞」の委員会表彰を行う。	質問8「学習時間の全くしない」が0%であった。また学びの基礎力の学習継続力が63.4ポイントであり、県の58.5ポイントを5ポイント近く上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・すべての教科で問題を解く時間が十分ではなかった。→問題を理解し手際よく解いていくことができない。 ・「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いている」では、県平均より20ポイント近く低くなっている。	・問題の意味を理解し、速く正確に解けるようにする。 ・「ねらい」「振り返り」までを、生徒に分かりやすく提示し、書くことで徹底させる。	・数学などの豆テストを時間を決めて継続実施し、速く正確に解く練習をするなど。 ・パワーアップシート等を年間を通して計画的に取り入れることで、時間内に問題を理解して解く練習をする。 ・「ねらい」を授業の最初に提示すること、授業の流れを板書に残すことを徹底し、授業の終わりに学習内容の振り返り、自分のつまづきを克服させる指導の充実を図る。